

都市再生整備計画 事後評価シート

竜王中央地区

平成25年3月(平成26年3月修正)

滋賀県竜王町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名		滋賀県		市町村名		竜王町		地区名		竜王中央地区			面積		670ha	
交付期間		平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期		平成24年度		交付対象事業費		1233.1		国費率	0.408			
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業		基幹事業		事業名											
					道路(西通り線、小口八重谷線)、地域生活基盤施設(広場:農村運動広場) 高次都市施設(地域交流センター:(仮称)武道交流会館)、既存建造物活用事業(地域交流センター:タウンセンター内竜王町公民館)											
			提案事業		地域創造支援事業(コミュニティバス運行社会実験) 事業活用調査(遊休公用地利活用調査、(仮称)タウンセンターデザイン検討事業) まちづくり活動推進事業((仮称)交電地まち倶楽部育成事業)											
	当初計画 から 削除した 事業				基幹事業		事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
			道路((仮称)広谷線) 公園((仮称)子育てふれあい公園) 地域生活基盤施設(広場:多目的広場、緑化空間:タウンセンター内、 自転車駐車場:タウンセンター内、農村運動広場・多目的広場、 地域防災施設(放送施設):総合運動公園) 高質空間形成施設(緑化施設等:タウンセンター外周、歩行支援施設(シェルター)) 高次都市施設(人工地盤等(立体遊歩道橋))				小口工業団地造成のスケジュールとの関係から削除 公民館敷地の再編にあわせて再検討するため削除 町の緊縮財政に伴い削除				指標2に関連するがその影響は微小と判断し、影響なし 指標2、3に関連するがその影響は微小と判断し、影響なし 関連する数値指標の目標値を修正					
			提案事業		地域創造支援事業(学校施設耐震改修事業、ふるさと体験促進事業、 スボレク交流促進事業)				町の緊縮財政に伴い削除				関連する数値指標の目標値を修正 関連する数値指標の目標値を修正			
	新たに追加した 事業				基幹事業		道路(小口川守線) 道路(岡屋仁殿線)、道路(国道477号)、公園(多機能グラウンド[1号調整池])、地域 生活基盤施設(緑地(ため池の整備))				関連事業からの転換 工業団地の交通便利性の向上、学びの場や憩いの場としての活用 のため追加				影響なし 指標2に関連するが、工業団地整備後に効果が発現するものであり、影響 なし	
			提案事業				地域創造支援事業(既存建造物活用事業(発達支援))				地域交流センターの一部から転換				影響なし	
交付期間 の変更		当 初			平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響		－							
		変 更		－												
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標			従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)			フォローアップ 予定時期	
	単位			基準年度		目標年度		モニタリング								評価値
	指標1	ドラゴンスポーツクラブの会 員数	人	232	H19	288	H24			244	△	あり なし	●	農村運動広場でのスポーツレクリエーション環境を整え るための機能強化としての照明灯整備と、屋内スポーツ 教室にも活用すべく、新たに整備された武道交流会館等 の条件整備により会員数の増加を図ったものの、スポー ツを通じての住民交流に関する意識啓発やタウンセン ター内での企画・実践といったソフト施策が実行できな かったこともあり、目標達成に繋がらなかった。ただし、 住民の意向を踏まえた新たなスポーツ教室メニューの創 出が指標の改善に繋がっている。		
	指標2	安心安全の暮らしやすさに 対する改善要求度	%	32	H17	25	H24			24	○	あり なし	●	タウンセンター内で実施した道路整備や竜王町公民館 のリニューアル、民間商業施設の出店などの事業成果、 また、町民が参画する交電デザイン会議が提言したタウ ンセンターの将来像のPR成果、タウンセンター周辺で実 施したタウンセンターへのアクセシビリティや拠点性の向上に 寄与するその他事業が目標の達成に貢献したと考えら れる。		
指標3	子育て支援活動への参加 者数	人/月	301	H19	360	H24			482	○	あり なし	●	子育て支援センターの移転、竜王町公民館改修による キッズランド及び交流フロアの新設に伴う子育て支援環 境の強化、子育て支援に係る講座や教室の充実が目標 の達成に貢献したと考えられる。			
指標4	青年団の団員数	人	294	H19	300	H24			230	×	あり なし	●	青年人口減少等の社会情勢の影響や若者の町外流出 に加え、竜王町公民館の改修に合わせて青年団事務所 を移転できなかったこと、青年団活動の住民への啓発が 上手くできなかったことが目標未達成の原因と考えられ る。 なお、竜王町公民館「交電フロア」の若者(青年団)を対 象にした午後10時～0時までの開館延長や年中無休(年 末年始除く)によって活動がしやすい場の充実や、タウ ンターコスモスまつり等の地域活動への参加機会の創出 を図ったが、指標の改善は見られなかった。			
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標) による効果発現状況	指 標			従前値		目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)			フォローアップ 予定時期	
	単位			基準年度		目標年度		モニタリング								評価値
	その他の 数値指標1	公民館の利用者数	人/年	41,600	H19					55,445			●	公民館施設の改修・増築や講座企画の充実、年中無休 化、開館時間の延長等による公民館機能の強化、タウ ンター内の道路整備によるアクセシビリティの向上、民間商 業施設の出店や子育て支援センターの移転によるタウ ンターの拠点性の向上、公民館でのイベント開催によるPR 効果が目標の達成に貢献したと考えられる。		
4)定性的な効果 発現状況																
・指標2の改善要求度の計測のため実施した町民アンケートによれば、タウンセンターに訪れる頻度が5年前より増加したとの回答が66%であった。 ・タウンセンター内の保健センターにある“こどもひろば”を訪れた親子において、「保健センター⇒フレンドタウン竜王で買い物⇒公民館交電フロアで昼食⇒保健センターに戻る」という移動の流れが見られ、タウンセンター内の回遊性が創出された。 ・公民館改修事業により増築した「交電フロア」では、年中無休・使用料の無料化・若者(青年団)を対象にした午後10時～0時までの開館延長などの利用促進に向けた取り組みを展開し、青年団・青年学級の会議や活動、また、自主活動グループの活動や展示会、イベントなどに積極的に活用された。																
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング		庁内調整会議(全体会議7回、個別会議6回)				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●					
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加 プロセス		・竜王町タウンセンター交電デザイン会議の開催				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●					
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							●									
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった																
持続的なまちづくり 体制の構築		①タウンセンターコスモスまつりの開催(コスモス広場の通路(迷路)づくりと開花に合わせたイベント) ②まちづくりフォーラム、文化祭の開催(町民のまちづくりに対する意識啓発を図るとともに、町民の自主的活動の場を提供)				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●						
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●						
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

様式2-2 地区の概要

竜王町中央地区(滋賀県竜王町) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：若者が魅力と誇りを感じ、地域の活力を高める交竜(交流)拠点の創出 目標１：まちの顔となるタウンセンター(まちの中心核)や周辺のスポーツレクリエーション拠点の機能強化 目標２：交流拠点施設における防災機能の強化とアクセス環境(利便と安全)の向上 目標３：まちへの愛着と誇りを高める若者世代(青年団や子育て世代)のまちづくり活動や担い手育成活動の促進	ドラゴンスポーツクラブの会員数	単位：人	232	H19	288	H24	244	H24
	安心安全の暮らしやすさに対する改善要求度	単位：％	32	H17	25	H24	24	H24
	子育て支援活動への参加者数	単位：人	301	H19	360	H24	482	H24
	青年団の団員数	単位：人	294	H19	300	H24	230	H24
	公民館の利用者数	単位：人	41,600	H19			55,445	H24



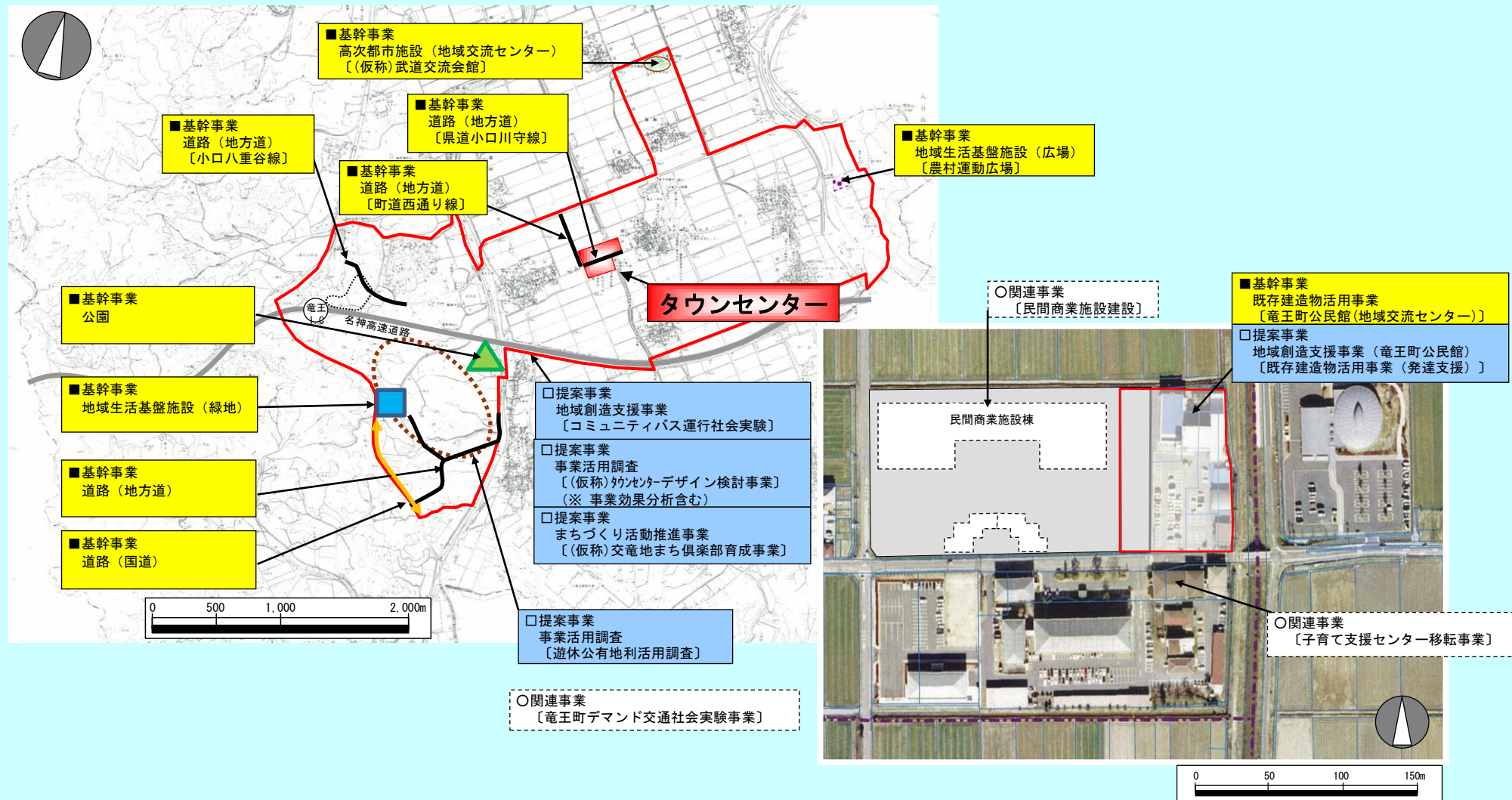
歩道が拡幅され、歩きやすくなった小口八重谷線



歩道整備され、歩きやすくなった西通り線



歩道が両側に拡幅され歩きやすくなった小口川守線



コンバージョン・増築により機能強化された公民館



武道以外の多目的に活用されている武道交流館



照明施設の拡充により夜間利用しやすくなった農村広場

まちの課題の変化	○公民館施設の改修・増築をきっかけとして、講座規格の充実・年中無休や閉館時間の延長等により公民館機能が強化され、また、商業施設の出店や子育て支援センターの移転、周辺の交通環境改善によりタウンセンターの拠点性が向上したが、若者定住に直接貢献する施策の展開や拠点相互間の連携を強化しタウンセンター内の拠点性をさらに高める必要がある。 ○雇用創出のため、県有地を活かした産業振興を図る必要がある。 ○武道交流館の整備や農村運動広場のナイター設置によりスポーツ関連の交歓拠点が形成されたが、PR等によりさらに利用促進を図る必要がある。 ○道路整備や公民館敷地内へのバス停設置、タウンセンターに至る歩行者通行環境が改善されたが、新たな公共交通体系の導入を図る必要がある。 ○第2避難所として地域防災計画に位置づけられている武道交流館の整備や公民館ホールの耐震補強、防災センターへのアクセス性向上により防災機能が強化されたが、東日本大震災の教訓を踏まえ、防災力の強化を図る必要がある。 ○交歓デザイン会議の開催によりキーパーソン発掘やまちづくり機運の高揚につながり、デザイン会議有志が行政との協働によりコスモスまつりを開催したが、まちづくり活動への支援や新たな担い手である青年団に対する支援が必要である。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	○若者の流出を防ぎ流入を促進する施策を展開し、また従来の公民館機能を超えた複合交流施設としての機能の充実・強化を図り、タウンセンター内の施設との連帯感を創出することで拠点性の更なる強化を図る。 ○雇用の場を確保し、地域経済の振興を図るため、県有地(工業団地)の環境整備や企業誘致を推進する。 ○スポーツ関連の交流施設のPRや運営の工夫により施設の利用促進を図る。 ○タウンセンターとその他拠点や集落を連絡する道路整備や、新たな公共交通体系の導入を図り、タウンセンターへのアクセス性を更に高める。 ○避難訓練を通じてタウンセンターの防災機能を強化し、さらに高齢化が進む各集落の地域防災力もあわせて強化する。 ○まちづくりの新たな担い手となる住民活動組織の構築や、青年団等の既存組織を含めた自主的活動や行政との協働による取組みに対して支援を行い、地域の自立性を高める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1(従前値:220人、目標値:300人)	指標1(従前値:232人、目標値:288人)	指標に関連する事業の削除に伴い、継続事業と削除事業の事業費の比率に基づき、目標値を再設定した。
			指標2(従前値:32%、目標値:22%)	指標2(従前値:32、目標値:25%)	指標に関連する事業の削除に伴い、継続事業と削除事業の事業費の比率に基づき、目標値を再設定した。
D. その他(目標と指標及び目標値の関連性)	●		【指標1】:スポーツレクリエーションの活動の場や企画の充実により、各種スポーツ活動の普及の指標となるドラゴンスポーツクラブの会員数の3割以上の増加を目指す。	【指標1】:スポーツレクリエーションの活動の場や企画の充実により、各種スポーツ活動の普及の指標となるドラゴンスポーツクラブの会員数の2割以上の増加を目指す。	目標値の変更にあわせて、関連性を一部変更した。
			【指標2】:各種事業の推進によって、まちの中心部の生活環境や防災環境等の公共サービスの機能や施設に対する改善要求度を10%程度減少させることを目指す。	【指標2】:各種事業の推進によって、まちの中心部の生活環境や防災環境等の公共サービスの機能や施設に対する改善要求度を7%程度減少させることを目指す。	目標値の変更にあわせて、関連性を一部変更した。

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	西通り線	315	L＝1,350m	62.4	L＝460m	事業延長の縮小とそれに伴う事業費の減額	事業区間のうち、最も効果が見込まれる総合庁舎周辺部は整備が実施されることから、影響なし	●	
道路	(仮称)広谷線	85	L＝300m	—	—	小口工業団地造成のスケジュールとの関係から第2回変更時に削除	指標2に関連するが、その影響は微小と判断し、数値目標は据え置く	—	—
道路	小口八重谷線	101	L＝1,000m	129.7	L＝850m	事業延長の縮小及び事業費の精査	影響なし	●	
道路	小口川守線	—	—	27.5	L＝180m	タウンセンター内のアクセス環境の向上のため第1回変更時に追加	当初計画において関連事業に位置付けのあった事業であるため、数値目標等への影響はないと判断	●	
道路	岡屋仁殿線	—	—	50.1	A＝9,700㎡	交通利便性の向上のため第6回変更時に追加	指標2に関連するが、工業団地整備後に効果が発現するものであり、影響なし	●	
道路	国道477号	—	—	3.6	A＝400㎡	交通利便性の向上のため第6回変更時に追加	指標2に関連するが、工業団地整備後に効果が発現するものであり、影響なし	●	
公園	(仮称)子育てふれあい公園	15	A＝700㎡	—	—	タウンセンター内の公園・緑地のあり方を公民館敷地の再編とあわせて再検討することとなり第3回変更時に削除	指標2、3に関連するが、その影響は微小と判断し、数値目標は据え置く	—	—
公園	多機能グラウンド[1号調整池]	—	—	305.6	A＝38,700㎡	工業団地の防災機能の向上や、学びの場や憩いの場として活用するため第6回変更時に追加	指標2に関連するが、工業団地整備後に効果が発現するものであり、影響なし	●	
地域生活基盤施設	広場 農村運動広場・多目的広場	17	A＝26,000㎡	6.1	6基	多目的広場の削除、事業費の精査	影響なし	●	
地域生活基盤施設	緑化空間 タウンセンター内	12	A＝1,800㎡	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
地域生活基盤施設	自転車駐車場 タウンセンター内駐車場	5	A＝600㎡	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
地域生活基盤施設	自転車駐車場 農村運動広場・多目的広場	2	A＝100㎡	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
地域生活基盤施設	自主防災施設(放送施設) 総合運動公園	11	1式	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
地域生活基盤施設	緑地 ため池の整備	—	—	153.4	A＝8,400㎡	工業団地の防災機能の向上や、学びの場や憩いの場として活用するため第6回変更時に追加	指標2に関連するが、工業団地整備後に効果が発現するものであり、影響なし	●	
高質空間形成施設	緑化施設等 タウンセンター外周	6	L＝400m	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
高質空間形成施設	歩行支援施設(シェルター) タウンセンター内施設間	22	L＝300m	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
高次都市施設	地域交流センター (仮称)武道交流会館	203	A＝750㎡	208.0	A＝904㎡	設計内容の精査等に伴い事業費を増額	影響なし	●	
高次都市施設	人工地盤等(立体遊歩道橋) タウンセンター内河川横断歩道橋	100	L＝60m	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
既存建造物活用事業	地域交流センター タウンセンター内竜王町公民館	195	A＝890㎡	209.0	A＝2,249㎡	設計内容の精査等に伴い事業費を増額	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	学校施設耐震改修事業	22	A＝2,400㎡	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
	ふるさと体験促進事業	19	1式	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
	スポレク交流促進事業	20	1式	—	—	町の緊縮財政に伴い第4回変更時に削除	事業の削除に伴い関連する数値指標の目標値を変更	—	—
	コミュニティバス運行社会実験	6	調査事業	3.8	調査事業	事業費の精査	影響なし	●	
	既存建造物活用事業(発達支援)	—	—	62.0	—	第3回変更時に「地域交流センター」の一部を転換	影響なし	●	
事業活用調査	遊休公有地利活用調査	4	1式	1.8	1式	事業費の精査	影響なし	●	
	(仮称)タウンセンターデザイン検討事業	10	—	9.1	—	事業費の精査	影響なし		●
まちづくり 活動推進事業	(仮称)交流地まち倶楽部育成事業	2	—	1.0	—	事業費の精査	影響なし		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
県道小口川守線道路改良事業		タウンセンター内	35	—	平成20年度～平成21年度	—	基幹事業の道路に転換	
企業立地用地造成事業		竜王町・IC周辺	1,030	—	平成21年度～平成23年度	—		
民間商業施設建設		タウンセンター内	—		—	平成21年度～平成22年度	予定通り完了	
子育て支援センター移転事業		タウンセンター内	—		—	平成23年度～平成23年度	予定通り完了	
竜王町デマンド交通社会実験事業		竜王町内	—	4	—	平成24年度～平成24年度	予定通り完了	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
														あり	なし
指標1	ドラゴンスポーツクラブの 会員数	人	平成24年7月1日時点におけるドラゴンスポーツクラブの会員数と、過去5年間(平成19年度～平成23年度)の傾向から、評価基準日【平成25年3月31日】の会員数を推計し、評価値(見込みの値)とする。	365	H16	232	H19	288	H24	モニタリング		モニタリング			●
										事後評価	確定見込み●	244	事後評価	△	
指標2	安心安全の暮らしやすさ に対する改善要求度	%	町民運動会など町民が集まる機会を利用して、従前値と同様の設問でアンケート調査を行う。アンケート調査時点で、町中心部の生活環境等の改善に関連する事業は全て完了しているため、アンケート結果をもって確定値とする。	—	—	32	H17	25	H24	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み●	24	事後評価	○	
指標3	子育て支援活動への参加 者数	人	平成24年4～9月の地域子育て支援拠点活動(こどもひろば等)への参加者数を把握し、その平均値を確定値とする。	—	—	301	H19	331	H24	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み●	482	事後評価	○	
指標4	青年団の団員数	人	平成24年10月16日時点の値をもって評価値(見込みの値)とする。	305	H16	294	H19	300	H24	モニタリング		モニタリング			●
										事後評価	確定見込み●	230	事後評価	×	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事業導入前(平成20年度以前)は一貫して減少傾向にあったが、事業導入後は増加傾向に転じており、都市再生整備計画事業の効果は見取れる。ただし、1年以内に達成する見込みはない。	—
指標2	道路整備や竜王町公民館のリニューアル、民間商業施設の出店などの事業成果が暮らしやすさに対する改善要求度を低下させ、目標値を達成した。	—
指標3	子育て支援センターの移転、竜王町公民館改修によるキッズランド及び交電フロアの新設に伴う子育て支援環境の強化、子育て支援に係る講座や教室の充実によって子育て支援活動への参加者数が増加し、目標値を達成した。	—
指標4	公民館改修に合わせた青年団事務所の移転やまちづくり活動に対する意識啓発などにより、地域主体のまちづくり活動の担い手である青年団の団員数の維持を目指していたものの、青年人口減少等の社会情勢の影響や、青年団事務所の移転などが当初の計画通りに実施できなかったこと等から目標を達成することができなかった。また、1年以内に達成する見込みは困難であるが、今年度は団員数が増加に転じている。	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	公民館の利用者数	人	今年度も一工夫を加えた講座 企画が実施されるとともに、更 に利用促進に向けた新たな取 組みが加速すると考えられるた め、少なくとも平成24年度の公 民館利用者数は平成23年度と 同程度となると仮定し、平成24 年3月31日時点における竜王町 公民館の利用者実績をもって評 価値(見込みの値)とする。	32,850	H13	41,600	H19	モニタリング			公民館の改修や増築をきっか けとして、講座企画等の充実や 年中無休、閉館時間の延長、さ らに隣接する商業施設の出店 により、拠点性の高まりを説明 する指標として相応しいと考える。	—
								事後評価	確定 見込み	●		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・指標2の改善要求度の計測のため実施した町民アンケートによれば、タウンセンターに訪れる頻度が5年前より増加したとの回答が66%であった。

・タウンセンター内の保健センターにある“こどもひろば”を訪れた親子において、「保健センター⇒フレンドタウン竜王で買い物⇒公民館交竜フロアで昼食⇒保健センターに戻る」という移動の流れが見られ、タウンセンター内の回遊性が創出された。

・住民プロセスの一環として進めてきた「竜王町タウンセンター交竜デザイン会議」の有志が中心となって、開発手続き中の商業施設予定地を有効活用するため、コスモスマつりを開催した。住民主体、多様な主体との連携、官民協働のモデル的活動となった。

・公民館改修事業により増築した「交竜フロア」では、年中無休・使用料の無料化・若者(青年団)を対象にした午後10時～0時までの開館延長などの利用促進に向けた取り組みを展開し、青年団・青年学級の会議や活動、また、自主活動グループの活動や展示会、イベントなどに積極的に活用された。

・地域防災計画において第2避難所に位置づけられている武道交流会館の整備や、竜王町公民館ホールの耐震補強、タウンセンター内の道路整備による防災センターへのアクセス向上により、町内の防災機能が強化された。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市内調整会議	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】全体会議：計7回、個別会議：計6回開催 【実施時期】平成20年度～平成22年度 【実施結果】個別事業内容の深度化、事業進捗・予定の確認を行うとともに、その結果をフィードバックして全体計画の調整を行った。	今後も市内の横断的な調整を密に行う。

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
竜王町タウンセンター交電デザイン会議	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】計9回開催 【実施時期】平成20年度～平成22年度 【実施結果】事業に関わる意見だけでなく、今後のまちづくりや土地活用に関する意見交換も行われている。	今後も町民参画によるまちづくりを推進する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
タウンセンターコスモスマツリの開催	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 開発手続き中の商業施設予定地を町民交流・憩いの場として有効活用するため、町民有志が中心となり、コスモス広場の通路(迷路)づくりと開花に合わせたイベントを開催	組織名：タウンセンターコスモスマツリ実行委員会 組織の概要：竜王町タウンセンター交電デザイン会議の有志により構成	住民主体、多様な主体との連携、官民協働のモデル的活動となった本活動をモデルに、次の活動につなげる。
まちづくりフォーラム、文化祭の開催	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● まちづくり煌きフォーラム(平成23年10月29日)、竜王町文化祭(平成23年11月5、6日)の機会を利用し、町民のまちづくりに対する意識啓発を図るとともに、町民の自主的活動の場を提供	青年団を始めとする自主的団体が企画、運営に参画	今後も町民の自主的活動の場を積極的に提供する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議 (庁内の横断的な組織)	建設水道課、政策推進課、産業振興課、 健康推進課、生涯学習課、竜王町公民館	平成24年8月30日 平成24年10月16日	建設水道課(都市計画係)

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		その他の数値指標1			
指 標 名		安心安全の暮らしやすさに対する満足度		子育て支援活動への参加者数		公民館の利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	道路(西通り線)	◎	タウンセンター内で実施した道路整備や竜王町公民館のリニューアル、民間商業施設の出店などの事業成果、また、町民が参画する交竜デザイン会議が提言したタウンセンターの将来像のPR成果、タウンセンター周辺で実施したタウンセンターへのアクセス性や拠点性の向上に寄与する その他事業が目標の達成に貢献したと考えられる。	—	子育て支援センターの移転、竜王町公民館改修によるキッズランド及び交流フロアの新設に伴う子育て支援環境の強化、子育て支援に係る講座や教室の充実が目標の達成に貢献したと考えられる。	○	公民館施設の改修・増築や講座企画の充実、年中無休化、開館時間の延長等による公民館機能の強化、タウンセンター内の道路整備によるアクセス性の向上、民間商業施設の出店や子育て支援センターの移転によるタウンセンターの拠点性の向上、公民館でのイベント開催によるPR効果が目標の達成に貢献したと考えられる。		
	道路(小口八重谷線)	○		—		○			
	道路(小口川守線)	◎		—		○			
	道路(岡屋仁殿線)	○		—		—			
	道路(国道477号)	○		—		—			
	公園(多機能グラウンド[1号調整池])	○		—		—			
	地域生活基盤施設:広場(農村運動広場)	○		—		—			
	地域生活基盤施設:緑地(ため池の整備)	○		—		—			
	高次都市施設:地域交流センター(武道交流会館)	○		△		—			
	既存建造物活用事業:地域交流センター(竜王町公民館)	◎		◎		◎			
提案事業	地域創造支援事業:コミュニティバス運行社会実験事業	○		—		○			
	地域創造支援事業:既存建造物活用事業(竜王町公民館、発達支援)	◎		◎		◎			
	事業活用調査:遊休公有地利活用調査	○		—		—			
	事業活用調査:タウンセンターデザイン検討事業	○		△		○			
	まちづくり活動推進事業:交竜地まち倶楽部育成事業	—		△		○			
関連事業	民間商業施設建設	◎		○		○			
	子育て支援センター移転事業	◎		◎		○			
	竜王町デマンド交通社会実験事業	○		—		○			

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
— : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も町民生活のより所となるタウンセンターにおいて、生活環境や防災環境、交流環境等の充実・強化に向けた取り組みを継続して行う。	今後も子育て支援に関するニーズを把握し、子育て世代の交流機会の創出や子育て相談の充実などの取り組みを継続して行うとともに、それらを積極的にPRする。	公民館の更なる利用促進に向け、公民館で実施する教室・講座やイベントを充実するとともに、従来の公民館機能を超えた複合交流施設として機能の充実・強化を図る。また、タウンセンター内に立地する商業施設を始めとした、他の施設との互いの特性を生かしたことによる相乗効果により、住民にとってより魅力的な事業展開を図る。	
-------	---	--	--	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標4								
指 標 名		ドラゴンスポーツクラブの会員数			青年団の団員数								
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	道路(西通り線)	—	農村運動広場でのスポーツレクリエーション環境を整えるための機能強化としての照明灯整備と、屋内スポーツ教室にも活用すべく、新たに整備された武道交流会館等の条件整備により会員数の増加を図ったものの、スポーツを通じての住民交流に関する意識啓発やタウンセンター内での企画・実践といったソフト施策が実行できなかったこともあり、目標達成に繋がらなかった。ただし、住民の意向を踏まえた新たなスポーツ教室メニューの創出が指標の改善に繋がっている。	Ⅱ	—	青年人口減少等の社会情勢の影響や若者の町外流出に加え、竜王町公民館の改修に合わせて青年団事務所を移転できなかったこと、青年団活動の住民への啓発が上手くできなかったことが目標未達成の原因と考えられる。 なお、竜王町公民館「交竜フロア」の若者(青年団)を対象にした午後10時～0時までの開館延長や年中無休(年末年始除く)によって活動がしやすい場の充実や、タウンセンターコスモスまつり等の地域活動への参加機会の創出を図ったが、指標の改善は見られなかった。	Ⅱ						
	道路(小口八重谷線)	—			—								
	道路(小口川守線)	—			—								
	道路(岡屋仁殿線)	—			—								
	道路(国道477号)	—			—								
	公園(多機能グラウンド[1号調整池])	—			—								
	地域生活基盤施設:広場(農村運動広場)	×			—								
	地域生活基盤施設:緑地(ため池の整備)	—			—								
	高次都市施設:地域交流センター(武道交流会館)	△			—								
	既存建造物活用事業:地域交流センター(竜王町公民館)	×			×								
提案事業	地域創造支援事業:コミュニティバス運行社会実験事業	×			—								
	地域創造支援事業:既存建造物活用事業(竜王町公民館, 発達支援)	—			—								
	事業活用調査:遊休公有地利活用調査	—			—								
	事業活用調査:タウンセンターデザイン検討事業	×			×								
	まちづくり活動推進事業:交竜地まち倶楽部育成事業	×			×								
関連事業	民間商業施設建設	—			—								
	子育て支援センター移転事業	—			—								
	竜王町デマンド交通社会実験事業	—			—								

※目標未達成への影響度
××:事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×:事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△:数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
—:事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	スポーツレクリエーションの場をPRするとともに、利用促進に向けた運営の工夫を行うこと、また、スポーツを通じた住民交流などに関する意識啓発や企画の提案・実践を継続して行う。	若者定住に向けた取り組みを行うとともに、青年団や次世代を育てる子ども会・PTAとの連携協力による活動の充実やまちづくりの新たな担い手としての組織の発展に向けて、活動支援や活動機会の提供を行う。		
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議 (庁内の横断的な組織)	建設水道課、政策推進課、産業振興課、 健康推進課、生涯学習課、竜王町公民館	平成24年8月30日 平成24年10月16日	建設水道課(都市計画係)

添付様式5－② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
若者が暮らしやすさを実感できる活力と交流の拠点を明確にする。	・公民館施設の改修・増築や講座企画の充実、年中無休、閉館時間の延長等により交流拠点である公民館の機能が強化された。 ・公民館の機能強化と合わせて、商業施設の出店や子育て支援センターの移転、周辺の交通環境の改善により、タウンセンターの拠点性が向上した。 ・武道交流会館の整備、農村運動広場におけるナイトー設備の設置により、スポーツ関連の交流拠点が形成された。	・タウンセンターの拠点性の向上や交流拠点の形成など、若者定住に向けた土台は形成されつつあるが、今後は若者定住に直接的に貢献する施策を展開する必要がある。 ・若者の雇用を創出するため、県有地を活かした産業振興を図る必要がある。 ・タウンセンター内の拠点性を更に高めるため、拠点施設相互の連携を強化する必要がある。 ・スポーツ関連の交流施設が十分に活用されていないため、PRなどにより利用促進を図る必要がある。	—
安心して暮らせる安全な生活環境をつくる。	・道路整備や公民館敷地内でのバス停設置によりタウンセンター内、また、タウンセンターに至る交通環境が改善され、特に歩行者や自転車通行のアクセス性が向上した。 ・第2避難所として地域防災計画に位置づけられている武道交流会館の整備、竜王町公民館ホールの耐震補強、タウンセンター内の道路整備による防災センターへのアクセス向上により、防災機能が強化された。	・公共交通のあり方検討において実施した交通社会実験の結果を踏まえ、新たな公共交通体系の導入を図る必要がある。	・東日本大震災の教訓を踏まえ、防災力の強化を図る必要がある。
地域の自立を支援する。	・交竜デザイン会議の開催により、キーパーソンの発掘、まちづくり機運の高揚につながった。 ・交竜デザイン会議の委員有志が中心となり、行政との協働のもと、タウンセンターコスモスマつりが開催された。	・キーパーソンを中心とした住民活動組織の構築、住民活動組織によるまちづくり活動に対する支援が必要である。 ・まちづくりの新たな担い手として期待される青年団等に対して、活動の充実、組織体制の強化などに向けた支援が必要である。	—

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	タウンセンターの拠点性の向上	公民館で実施する教室・講座やイベントを充実するとともに、従来の公民館機能を超えた複合交流施設としての機能の充実・強化を図る。	・公民館の利用促進に向けた関係者協議の開催 ・タウンセンター連絡協議会の開催（行政、民間事業者、町民により協議会を構成）
	タウンセンターへのアクセス性の向上	タウンセンターとその他拠点や各集落を連絡する道路を整備済区間との連続性を考慮して整備し、タウンセンターへのアクセス性を更に高める。	・道路整備事業
	防災機能の強化	タウンセンターとその他拠点や各集落を連絡する道路を整備済区間との連続性を考慮して整備し、タウンセンターへのアクセス性を更に高める。	・道路整備事業 ・地域防災計画の改定
	住民主体のまちづくり活動の推進	まちづくりの新たな担い手として期待される住民活動組織の構築や、青年団などの既存組織を含めた自主的活動や行政との協働による取組みに対して支援を行い地域の自立性を高める。	・新たな担い手組織の活動の継続

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	若者定住に向けた施策の展開	若者の流出を防ぐとともに、若者の流入を促進するため、定住促進や子育て支援に係る施策を展開する。	・定住促進施策(制度等)の検討 ・子育て支援に係る取り組みのPR及び強化
	県有地(工業団地)を活かした産業の活性化	雇用の場(特に若者)を確保し、地域経済の振興を図るため、県有地(工業団地)の環境整備や企業誘致を推進する。	・企業誘致の促進 ・アクセス道路の整備 ・既存樹林の保全・活用、新たな緑化
	タウンセンター及び拠点施設相互間の連携強化	共同イベントの開催等により、総合庁舎、図書館、公民館、商業施設の一体感や連帯感を創出し、タウンセンターの拠点性の更なる強化を図る。	・公民館の利用促進に向けた関係者協議の開催 ・タウンセンター連絡協議会の開催（行政、民間事業者、町民により協議会を構成）
	スポーツ関連の交流施設の利用促進	スポーツ関連の交流施設をPRするとともに、運営の工夫を行い、利用促進を図る。	・スポーツ関連交流施設のPR（教室の案内、各種情報・予約管理の一元化など）
	新たな公共交通体系の導入	新たな公共交通体系の導入を図り、タウンセンターへのアクセス性を更に高める。	・新たな公共交通体系の導入
	防災力の強化	避難訓練等を通じて、災害時の避難や応急対策の拠点となるタウンセンターの防災機能を強化する。また、高齢化が進む各集落の地域防災力もあわせて強化する。	・総合防災訓練の実施等による防災意識の高揚 ・災害時の安否確認に関連した世帯台帳の整理
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		住民主体のまちづくり活動の更なる促進	新たな住民活動組織の構築や、既存組織を含めた自主的活動や行政との協働による取組みに対して側面的な支援を行いつつ、地域の自立性を高める。 ・地域づくり実践養成講座の開催 ・新たな担い手組織の活動の継続 ・まちづくり活動支援事業（組織の構築や自主的活動に対して助成金等により支援）

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4－②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4－③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5－②）を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

(評価委員会での意見)
・青年団など今後のまちづくりの担い手となり得る団体等との連携においては、行政からの補助金といった形ではなく、協力体制をしっかりと整える必要がある。
・指標にあるドラゴンスポーツクラブに関して、活動を充実させるためには指導者が大事であり、指導者を育成する仕組みや外部からの招聘などが必要である。

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度								予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	ドラゴンスポーツクラブの会員数	人	232	H19	288	H24	確定	●	244	△	あり		平成25年4月	平成25年3月31日時点における住民基本台帳の町人口を確定値とする。	実施済
							見込み				なし	●			
指標2	安心安全の暮らしやすさに対する改善要求度	%	32	H17	25	H24	確定	●	24.0	○	あり		—	—	—
							見込み				なし				
指標3	子育て支援活動への参加者数	人	301	H19	360	H24	確定	●	482	○	あり		—	—	—
							見込み				なし				
指標4	青年団の団員数	人	294	H19	300	H24	確定	●	230	×	あり		平成25年4月	平成25年3月31日時点における団員数を青年団に確認し、その値をもって確定値とする。	実施済
							見込み				なし	●			
その他の数値指標1	公民館の利用者数	人/年	41,600	H19			確定		55,445		あり		平成25年4月	平成25年3月31日時点における利用者数を公民館に確認し、その値をもって確定値とする。	実施済
							見込み	●			なし				
その他の数値指標2							確定								
							見込み								
その他の数値指標3							確定								
							見込み								
その他の数値指標3							確定								
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	・事業の見直しに併せて、数値指標や目標値の大胆な見直しも必要である。
	うまく いかなかった点	・指標1「ドラゴンスポーツクラブの会員数」について、スポーツクラブの拠点であるドラゴンハット関連の事業が削除されたことが目標未達成の大きな要因と考えられる(目標値の下方修正は実施)。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・タウンセンター交竜デザイン会議の継続開催や、タウンセンターコスモスまつりの開催、まちづくりフォーラムや文化祭を活用した町民のまちづくりに対する意識啓発などにより、町民の地域づくりに対する関心や意識が高まった。	・町民がまちづくりに直接関わることができる機会を出来る限り提供し、町民と行政が一体となって地域づくりに取り組むことが望まれる。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・庁内調整会議により横断的な連携が密に図られ、また、その結果をタウンセンターデザイン会議に諮り周知したことにより、事業のスムーズな進捗に繋がった。	・今回と同様の取り組みを行い、事業のスムーズな進捗に繋げることが望まれる。
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後の交付金の活用予定
平成25年度より竜王IC周辺地区都市再生整備計画事業を実施予定
- ・今後、事後評価を予定する地区
平成29年度または平成30年度に上記地区の事後評価を実施予定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	—	—	—	下記の方法で 建設水道課に提出 ・郵送 ・持ち込み	建設水道課都市計画係
広報掲載・回覧・個別配布	「広報りゅうおう」により事前周知	—	平成24年10月25日～11月5日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	竜王町建設水道課にて閲覧	平成24年10月25日～11月5日	平成24年10月25日～11月5日		
住民の意見	・なし				

(6)評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	谷口 浩志(びわこ学院大学 短期大学部教授)	平成24年11月29日	建設水道課都市計画係	竜王町タウンセンター交竜デザイン会議設置要綱	竜王町タウンセンター交竜デザイン会議
その他の委員	西 善一(竜王町タウンセンター交竜デザイン会議 会長) 安井 宏子(" 副会長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標4「青年団の団員数」について、青年団に入団できる年齢人口との割合で指標を設定した方が良かったかもしれないとの意見があった。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、町民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・安心して子育てができる環境を整えることが定住促進にとって重要との意見があった。
	フォローアップ	・今後のフォローアップ計画について、委員の理解を得た。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(精算報告)

リゅうおうちゅうおう ちく
竜王中央地区

しが リゅうおう
滋賀県 竜王町

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	滋賀県	市町村名	竜王町	地区名	竜王中央地区	面積	670 ha
計画期間	平成20年度～平成24年度	交付期間	平成20年度～平成24年度				

目標 若者が魅力と誇りを感じ、地域の活力を高める交竜(交流)拠点の創出 ①:まちの顔となるタウンセンター(まちの中心核)や周辺のスポーツレクリエーション拠点の機能強化 ②:交流拠点施設における防災機能の強化とアクセス環境(利便と安全)の向上 ③:まちへの愛着と誇りを高める若者世代(青年団や子育て世代)のまちづくり活動や担い手育成活動の促進							
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 竜王町は古くから農業を基幹産業として発展してきたが、名神高速道路・竜王インターチェンジの開設(昭和56年)を契機として、工場や住宅団地の整備が進み、農工が併存の町へと移行してきた。昭和50年代に入ってから人口が増加に転じ、ピーク時(平成7年の国勢調査)には13,650人となったが、近年は僅かな減少傾向がみられている。 また、都市及び市街地の構造としては、32からなる自治区が古くからの歴史や伝統を継承しながら、網の目状に集落を形成してきており、中心市街地が発達していないネットワーク型の町である。そのことから、公共施設や公的な施設が各地域や集落に点在し、町域からの相互利用の利便性を欠いているのが実情である。 さらに、竜王中央地区においては、竜王町総合庁舎をはじめとした行政サービス施設や教育・文化施設、スポーツレクリエーション施設が集積しているものの、各々の施設の老朽化や機能・サービスの低下、アクセス路やバス等の公共交通機関のサービスの不備が問題となっており、地域振興及び町民の暮らしやすさの向上に向けて、各々の施設が担う役割を明確にしながら、適切な維持管理や機能更新、高付加価値化に取り組んでいくことが求められている。 特に、平成17年に実施したまちづくり意識調査においては、町民ニーズとして、生活環境・都市基盤の分野に加えて、町内での買い物の利便性を高める商業施設の誘致、生涯学習拠点施設の整備、青少年育成活動やNPO等の地域活動の自立支援化への要望が高くなっていた。また、平成17年3月には町民20名を委員とする「竜王町の地域再生を考えるまちづくり懇談会」を設置し、全体会や部会において議論を深め、平成18年4月には、タウンセンターの形成を重点施策に位置づけるなどの今後の取り組むべき施策についての提言がなされている。これらをふまえて町では現在、民間商業施設の誘致に向けて積極的な取り組みを進めている。							
課題 竜王町民が強い愛着を持っている田園・森林の自然資源をベースに、竜王インターチェンジなどの地の利や公的な施設・遊休地・機能等の既存ストックを活かし、若者をはじめとする町民が竜王町に住んでいることに誇りを持てるまちづくりを進める必要がある。特に、分散ネットワーク型の地域構造の中で、町民生活のより所となるタウンセンター(中心核)を明確にするとともに、広域における竜王町の果たすべき役割を意識しながら竜王町ならではの存在感のある地域づくりが求められている。 ①若者が暮らしやすさを実感できる活力と交流の拠点を明確にする。 町の持続的な発展に資する若者の定住を促進するために、地域振興や交流の拠点となるタウンセンターを確立し、地域に貢献しながら地域とともに発展していく商業・サービス業等の日常生活の利便性を高めた暮らしやすい地域づくりを進めるとともに、若者や女性が主体的に参加でき、柔軟でしなやかな知恵と情熱が反映される地域づくりを進める必要がある。 ②安心して暮らせる安全な生活環境をつくる。 自然災害や交通事故の危険から生命や暮らしを守るために、災害時の避難や危機管理の拠点としての機能・施設の充実ならびに道路交通環境の改善を図り、老若男女が安心して安全に暮らせる地域づくりを進める必要がある。 ③地域の自立を支援する。 町民が親近感を感じる行政サービスの推進に向けて、行政と町民が同じ土俵に立ったパートナーシップとともに、自治会運営や地域活動等において、次代を担う若者などの住民自らの創意が反映される地域づくりを進める必要がある。							
将来ビジョン(中長期) ①第四次竜王町総合計画(平成13年10月策定) まちづくりの主要課題を克服し、『田園文化が薫る交竜の郷』を実現するために、戦略的に取り組む施策を以下のように設定している。 (1)自然資源を活かし、持続的に発展する竜王町の創造に向けて、環境と調和し共生する資源循環型まちづくりを進める。 (2)既存の人々の交流拠点や交流の仕組みにさらに磨きをかけ、人・もの・情報の交流往来によってもたらされたエネルギーが、新たな竜王町づくりのエネルギーに高まるよう「人・もの・情報の交竜プロジェクト」を進める。 (3)様々な危機から万全の体制で住民の生命と暮らしを守り、住民に快適な生活を営むための環境を提供していくために、安心・安全・安定(3A)プロジェクトを強力に推進する。 (4)竜王町全体のCI活動に取り組み、竜王町の地域存在感を高めるために、各自治区の住民が主体となった集落づくりが行われるよう「ドラゴンコミュニティ運動」を展開する。 ②竜王町都市計画マスタープラン(平成19年9月策定) 地域間交流や地域相互の連携を進めていくために、「個性溢れるたくましいまちづくり」を都市づくりのテーマとし、町の定住条件を整備しつつ、広域的なまちづくりを展開し、町の個性化を進めて町民のふるさと意識の醸成に繋げていくこととしている。その中の主要プロジェクトとして、総合庁舎周辺地区を竜王町のタウンセンター(中心核)に位置づけ、既に集積している行政サービス機能や生涯学習機能等の機能・サービスの維持・強化を図るとともに、新たに必要となる機能の適切な整備を行うこととしている。このように、行政サービス機能や生涯学習機能、子育て支援機能、健康増進・福祉機能、商業・業務機能等を計画的に整備し、多くの町民の生活利便性を向上する機能の集約化や複合化を図ることにより、周辺環境の整備とともに竜王町のタウンセンターにふさわしい「ふれあいや交流の場」を創造することを基本コンセプトとしている。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
ドラゴンスポーツクラブの会員数	人	竜王町体育振興協会が運営するドラゴンスポーツクラブの会員数	スポーツレクリエーションの活動の場や企画の充実により、各種スポーツ活動の普及の指標となるドラゴンスポーツクラブの会員数の2割以上の増加を目指す。	232	H19年度	288	H24年度
安心安全の暮らしやすさに対する改善要求度	%	町の中心部の生活環境等の公共サービスの機能や施設に対する改善要求度(アンケート調査)	各種事業の推進によって、まちの中心部の生活環境や防災環境等の公共サービスの機能や施設に対する改善要求度を7%程度減少させることを目指す。	32	H17年度	25	H24年度
子育て支援活動への参加者数	人/月	地域子育て支援拠点活動への参加者数(4～9月の上半期の月平均)	子育て支援等の若者の定住促進に貢献する活動の充実を図り、人口減少に歯止めをかけつつ、これらの活動への参加者数の1割程度の増加を目指す。	301	H19年度	360	H24年度
青年団の団員数	人	地域主体のまちづくり活動の担い手である青年団の団員数	環境美化・社会福祉・担い手育成等のまちづくり活動を持続的に発展させ、人口減少に歯止めをかけつつ、活動母体の青年団の団員数の維持を目指す。	294	H19年度	300	H24年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【整備基本方針】 ・町民ニーズに的確に対応するために、町民生活のより所となるタウンセンター（中心核）において、行政サービス機能はもとより、住民交流・防災・商業等の機能強化や施設の拡充・新設等を図り、竜王町の持続的な発展を支える都市機能拠点の形成を図る。 ・タウンセンターの確立に加えて、既存ストックを有効活用した周辺の交流拠点として「ドラゴンハット」・「妹背の里」・「竜王町中学校周辺」を位置づけ、スポーツレクリエーション機能を媒体とした地域間交流・住民交流の促進や都市防災機能の強化に向けた関連施設の更新・拡充・新設等を図る。	【分野別方針①：まちの顔となるタウンセンター（まちの中心核）や周辺のスポーツレクリエーション拠点の機能強化】 ・町の主要な行政サービス施設や交流施設が集積するタウンセンターへのアクセス利便性の向上に向けて、主要アクセス路における道路拡幅改良を図る。 ・タウンセンターにおける人々の交流を誘発するために、公民館の利用環境の改善等を図るとともに、タウンセンター内の各種施設の相互利用の利便性や快適性を高めるための公民館敷地の整備・充実を図る。 ・地域間交流や広域圏との交流促進、既存ストックの利用拡大等に向けて、農村運動広場のナイター設備の拡充を図るとともに、スポーツ関連の交流施設の機能拡充に向けて(仮称)武道交流会館の整備を図る。なお、(仮称)武道交流会館建設予定地は町立中学校敷地内に位置し、町地域防災計画において災害時における第2避難所として位置づけされている。 ・タウンセンターへのアクセス向上に向けて、住民意向の把握・反映、意識醸成を図りながら、今後の社会情勢を踏まえた竜王町における公共交通のあり方やネットワークについて検討し、その結果をもって 交通社会実験(関連事業)を行う。 ・竜王I.Cの広域アクセスの利便性を活かした地域活性化に向けて、遊休公有地の効果的な活用方法についての検討を行う。 ・上記の検討結果に基づき、県有地における交通便利性の高い工業団地の整備に向けて、主要幹線道路の整備や工業団地内のアクセス道路の整備を図る。また、学びの場や憩いの場の創出に向けて、緑地や多機能グランドの整備を図る。	地方道(西通り線)整備事業(基幹事業／道路／町) 広場整備事業(基幹事業／地域生活基盤施設／町) 民間商業施設建設(関連事業／民間事業者) 子育て支援センター移転事業(関連事業／町) 地域交流センター整備事業(基幹事業／高次都市施設／町) 公民館改修事業(基幹事業／既存建造物活用事業／町) コミュニティバス運行社会実験(提案事業／地域創造支援事業／町) 竜王町デマンド交通社会実験事業(関連事業／町) 公民館改修事業(提案事業／既存建造物活用事業(発達支援)／町) 遊休公有地地利活用調査(提案事業／事業活用調査／町) 国道477号[歩道設置](基幹事業/道路/町) 地方道[町道](基幹事業/道路/町) 多機能グラウンド[1号調整池](基幹/公園/町) 緑地[ため池の整備](地域生活基盤施設/緑地/町)
	【分野別方針②：地域の交流拠点施設における防災機能の強化とアクセス環境(利便と安全)の向上】 ・計画区域内に立地する竜王町公民館の耐震性の向上を図り防災機能を強化する。 ・計画区域内の日常的な移動における歩行者の安全性向上を図るために、歩道未設置区間における歩道設置など、道路交通環境の改善を図る。	地方道(小口八重谷線)整備事業(基幹事業／道路／町) 県道小口川守線道路改良事業(基幹事業／道路／町)
	【分野別方針③：まちへの愛着と誇りを高める若者世代(青年団や子育て世代)のまちづくり活動や担い手育成活動の促進】 ・地域が主体となったまちづくり活動や青少年育成活動、子育て支援活動などを積極的に展開するために、公民館のコンバージョンにより、まちづくりの活動拠点や各種サークル活動の場、発達支援拠点としての機能強化及び利用拡大を図る。 ・タウンセンターづくりに向けた各種事業の総合的な計画調整を行うために、利用主体となる住民が参画した検討検証組織を設置し、総合的かつ効果的な事業推進を行う。 ・町民が自ら考え、実践する風土を育成するため、「次世代育成」、「住民との協働」、「高齢者と地域」などをテーマとして、町民のまちづくりに対する意識啓発や行動改革を促す取組みを実施する。	公民館改修事業(基幹事業／既存建造物活用事業／町) 公民館改修事業(提案事業／既存建造物活用事業(発達支援)／町) (仮称)タウンセンターデザイン検討事業(提案事業／事業活用調査／町) (仮称)交竜地まち倶楽部育成事業(提案事業／まちづくり活動推進事業／町)
その他 【事業終了後の継続的なまちづくり活動】 ・まちづくりの新たな担い手として期待される住民活動組織の構築や、青年団などの既存組織を含めた自主的活動や行政との協働による取組みに対して支援を行い、継続的なまちづくり活動を可能にし地域の自立性を高める。 【交付期間中の計画の管理について】 ・タウンセンターの整備にかかる庁内担当部局が連携しながら、各交付対象事業等の進捗状況や効果の発現状況等を把握し、その後の事業の進め方や計画の見直し・精査を行い、より効果的なまちづくり施策の実現に向けた管理の徹底を図るものとする。 ・また、これらの計画内容や管理状況については、町ホームページや広報への掲載等により、常に町民に対する情報公開に努めるものとする。		

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	1,233.1	交付限度額	503.3	国費率	0.408
---------	---------	-------	-------	-----	-------

(金額の単位は百万円)

基幹事業														
事業		細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		交付対象 事業費
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	
道路	地方道	西通り線	竜王町	直	460m	H20	H20	H20	H20	62.4	62.4	62.4	0	62.4
		小口八重谷線	竜王町	直	850m	H20	H22	H20	H22	129.7	129.7	129.7	0	129.7
		小口川守線	竜王町	直	180m	H20	H20	H20	H20	27.5	27.5	27.5	0	27.5
		岡屋仁殿線	竜王町	直	9,700㎡	H24	H24	H24	H24	50.1	50.1	50.1	0	50.1
	国道	国道477号	竜王町	直	400㎡	H24	H24	H24	H24	3.6	3.6	3.6	0	3.6
公園		多機能グラウンド[1号調整池]	竜王町	直	38,700㎡	H24	H24	H24	H24	305.6	305.6	305.6	0	305.6
河川		—												
下水道		—												
駐車場有効利用システム			—											
地域生活 基盤施設	広場	農村運動広場	竜王町	直	6基	H20	H20	H20	H20	6.1	6.1	6.1	0	6.1
	緑地	ため池の整備(岡屋工業団地内)	竜王町	直	8,400㎡	H24	H24	H24	H24	153.4	153.4	153.4	0	153.4
高質空間 形成施設		—												
		—												
高次 都市施設	地域交流センター	(仮称)武道交流会館	竜王町	直	904㎡	H20	H20	H20	H20	208.0	208.0	208.0	0	208.0
		—												
既存建造物活用事業(地域交流センター)		タウンセンター内竜王町公民館	竜王町	直	2,249㎡	H20	H22	H20	H22	209.0	209.0	209.0	0	209.0
土地区画整理事業		—												
市街地再開発事業		—												
住宅街区整備事業		—												
地区再開発事業		—												
バリアフリー環境整備促進事業		—												
優良建築物等整備事業		—												
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型	—												
	沿道等整備型	—												
	密集住宅市街地整備型	—												
	耐震改修促進型	—												
街なみ環境整備事業		—												
住宅地区改良事業等		—												
都心共同住宅供給事業		—												
公営住宅等整備		—												
都市再生住宅等整備		—												
防災街区整備事業		—												
合計										1,155.4	1,155.4	1,155.4	0	1,155.4

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		交付対象 事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分		
地域創造支 援事業	コミュニティバス運行社会実験	調査事業	竜王町	直	—	H23	H 23	H23	H 23	3.8	3.8	3.8	0	3.8
	既存建造物活用事業(発達支援)	タウンセンター内竜王町公民館	竜王町	直	—	H22	H22	H22	H22	62.0	62.0	62.0	0	62.0
事業活用調 査	遊休公有地利活用調査	遊休地	竜王町	直	1 式	H20	H20	H20	H20	1.8	1.8	1.8	0	1.8
	(仮称)タウンセンターデザイン検討事業	(事業効果分析含む)	竜王町	直	—	H20	H24	H20	H24	9.1	9.1	9.1	0	9.1
まちづくり活 動推進事業	(仮称)交竜地まち倶楽部育成事業	育成啓発事業	竜王町	直	—	H23	H23	H23	H23	1.0	1.0	1.0	0	1.0
合計										77.7	77.7	77.7	0	77.7

合計(A+B)	1,233.1
---------	---------

(参考) 関連事業

[illegible]